

2026 年 10 月 23 日

**勘定系の開發生産性 30%向上、
「BankVision」専用 AI で変化に強い内製開発体制へ**
～「BankVision2.0」第三弾「BankVision DevAI Starter Kit」を 11 月から提供開始～

BIPROGY は、「BankVision2.0」の第三弾として、「BankVision」の内製開発・保守に特化した AI 活用サービス「BankVision DevAI Starter Kit（バンクビジョン デブエーアイ スターターキット）」を 11 月から提供開始します。

「BankVision DevAI Starter Kit」は、「BankVision」採用 11 金融機関との共同 PoC および BIPROGY による追加検証で得られた知見を基に、「BankVision」の開発資産や各金融機関の規約・設計書・プログラムソースを参照し、要件定義からテストまでを一気通貫で支援する AI 基盤を SaaS 型で提供します。

新たに「BankVision」を導入する金融機関においては、勘定系更改と同時に内製開発力の強化・ノウハウ継承・変更対応の迅速化を実現する内製開発体制の基盤となります。また、すでに「BankVision」を採用している金融機関においても、これまで蓄積してきた開発資産を生かしながら、同様の効果を早期に得ることができます。制度改正や新商品・サービスへの対応を加速し、IT 人材の専門性を価値創出へ振り向けることで IT 戦略を経営戦略と連動させ、事業成長を支援します。

【背景】

昨今、金融機関を取り巻く環境は、顧客ニーズの多様化や競争環境の変化、制度改正、データ・AI 活用の進展、サイバーセキュリティリスクへの対応など、大きく変化しています。こうした環境下では、安定的な金融サービスを継続しながら、新たな商品・サービスを迅速に提供することが求められています。

特に勘定系システムには、高い品質と安定性を保ちながら変化に迅速に対応できる開発力と、専門人材の知見を組織的に継承する仕組みが求められています。

BIPROGY は、こうした期待に応えるため、「BankVision」採用 11 金融機関との共同 PoC および追加検証を実施しました。

【11 金融機関との共同 PoC、BIPROGY による追加検証について】

BIPROGY は、「BankVision」採用金融機関から寄せられた AI 活用への期待を受け、既存の開発プロセスを大きく変えることなく、AI による支援および作業代替によって工数削減と品質向上に寄与する「BankVision DevAI Starter Kit」の企画・開発を進めてきました。

■ **検証期間**：①共同 PoC 2025 年 7 月～2025 年 12 月

②追加検証／サービス化準備期間 2026 年 1 月～2026 年 10 月

■ **共同 PoC 参加者**：株式会社山梨中央銀行、スルガ銀行株式会社、株式会社大垣共立銀行、株式会社百五銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社筑邦銀行、株式会社佐賀銀行、株式会社鹿児島銀行、株式会社西京銀行、株式会社商工組合中央金庫、農林中央金庫（金融機関コード順）、BIPROGY

■ **検証内容**：要件定義からシステムテストまでの開発工程における、AI による開発支援の有効性を検証

■ **検証結果**：テストケース作成、コーディング支援、障害解析などで即効性を確認。

さらに、追加検証にて、開發生産性が 30%以上向上することを確認でき、

「BankVision」開発における AI 活用の実効性を示す結果となりました。

【「BankVision」 AI 活用サービスの特徴】

「BankVision DevAI Starter Kit」は、「BankVision」開発に特化した AI 基盤を SaaS で提供します。「BankVision」の開発プロセスを前提に、AI が既存の設計書、プログラムソース、規約・ルールを参照し、「必要な資料を探す」「変更の影響範囲を調べる」「設計書やプログラムを作成する」「内容を確認する」といった一連の作業を支援します。これにより、限られた IT 人材を高付加価値業務へ再配置し、開発スピード、品質、人材継承を同時に強化します。

特徴は以下の通りです。

- ① 「BankVision」の既存資産を直接参照する MCP 連携
- ② 共通 RAG・個別 RAG とルール参照（開発ルール、運用ルールなど）による回答精度の向上
- ③ 用途別の AI エージェントによる開発作業支援

【「BankVision DevAI Starter Kit」概要図】



【導入効果】

「BankVision DevAI Starter Kit」の導入により、追加検証で確認した開發生産性 30%以上の向上をはじめ、以下の効果を見込んでいます。

- ① 設計、製造、テストなど「BankVision」開発工程における作業工数の削減
- ② 既存の設計書やプログラムソースを踏まえた回答による、影響調査・改修作業の高度化
- ③ 規約やルールに沿った成果物作成・レビューによる品質の均一化
- ④ 有識者の知識やレビュー観点の形式知化と次世代への継承
- ⑤ 利用金融機関間でのプロンプトや活用ノウハウ共有による、継続的な精度・実用性向上

【今後の取り組み】

BIPROGY は、利用金融機関からの意見を継続的に取り込み、支援機能と AI エージェントを段階的に機能追加していきます。今後は、障害解析や運用支援などへ適用範囲を広げ、対応時間の短縮や属人化の解消のほか、ログ分析や規制対応支援にも対応していきます。

将来的に「BankVision DevAI Starter Kit」を「BankVision」開発支援にとどまらない、採用金融機関の競争力向上と持続的な業務変革を支える AI 活用基盤へと進化させていきます。

以上

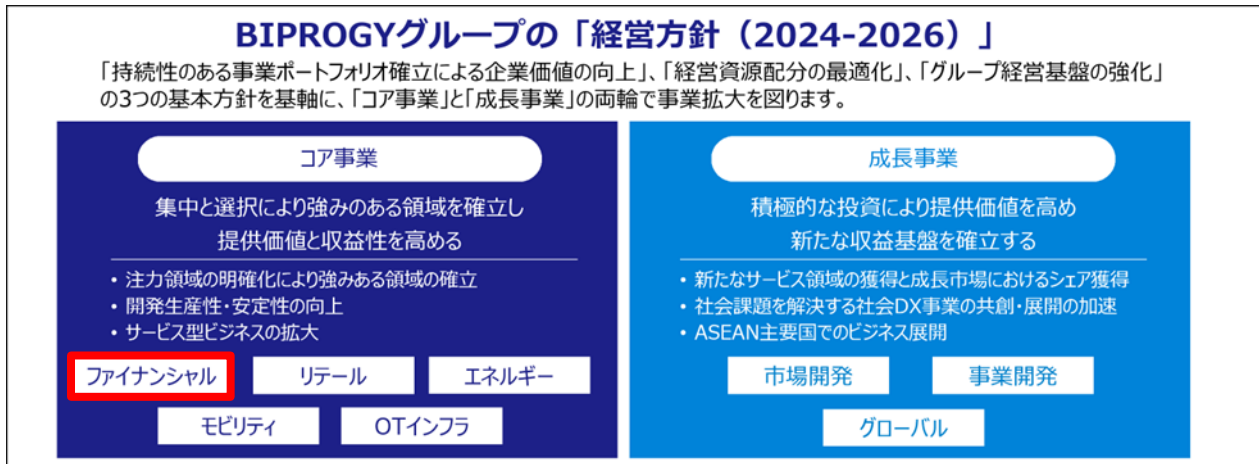
■関連リンク：

・「BankVision」：<https://www.biprogy.com/solution/service/bankvision.html>

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>



https://www.biprogy.com/newsrelease_contact/

【コア事業での取り組み】

BIPROGY グループが経営方針（2024-2026）で掲げるコア事業戦略として、五つの注力領域を定め、経営資源の集中により高い価値提供を目指します。本ニュースリリースの事業は、「ファイナンシャル領域」における取り組みと位置付けています。

BIPROGY グループは、多くのステークホルダーとの共創を通じて、地域経済の活性化を支援し、持続可能な社会の実現を目指します。

※BIPROGY グループ経営方針（2024-2026）

<https://www.biprogy.com/pdf/com/managementpolicy2024-26.pdf>